

マウス肝細胞 立体的に培養

物材機構

マウスの胎児の肝臓の細胞から、立体的な肝臓組織を培養することに、物質・材料研究機構（茨城県つくば市）が成功した。2日に大阪市であった日本再生医療学会で発表した。従来の平面で細胞を培養する方法では、管などの構造が作れなかったが、細胞を培養液に浮かせた状態に保つことによつて、血管や胆管構造を備えた3次元構造を作ることができたという。

実験では、肝臓や血管のもとになる細胞を1千万個程度取り出し、10日間培養した。この間、米航空宇宙局（NASA）が開発した培養装置を使つて、培養液の容器を回転させ、細胞にかかる重力を打ち消し、培養液に細胞が浮いた状態にした。できた肝臓組織は直径0・5〜1ミリ程度だった。